

2021年度 岡山大学大学院法務研究科
法学既修者B日程 試験問題

刑事法系（刑法，刑事訴訟法）

<解答上の注意>

1. 問題冊子は，表紙を含め3枚である。
2. 問題には，問題1と問題2がある。配点は，問題1が60点，問題2が40点である。
3. 表裏に解答欄がある解答用紙は，問題1用と問題2用の2枚が配布されている。各問題ごとに解答用紙1枚を使って解答すること。
4. 解答用紙の受験番号欄に受験番号を算用数字で記入し，また試験科目欄に「刑事法系」と記入すること。なお，整理番号等その他の記入欄には記入しないこと。
5. 試験終了後，問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ること。
6. 解答の際は，黒又は青のボールペンを使用すること。
7. 六法は貸与品なので，折り曲げや書込みをしないこと。なお，書込み・汚損等がある場合は申し出ること。
8. 試験終了後，指示があるまで席を立たないこと。
9. その他は，すべて監督者の指示に従うこと。

【問題1】 次の各設問に答えなさい。解答用紙の冒頭に「問題1」と記入すること（解答順序は問わないが、設問番号を記入すること。また、2問とも解答すること。）。

〔設問〕1（配点30点）

医師Xは、事情を知らない看護師Yを利用し患者Aを殺害しようとして、Yに毒入りの注射器を渡した。その後、Yは、注射器内の薬が毒薬であり、Xが自分を利用してAを殺害しようとしていることに気づいた。しかし、Yは、Y自身もAの自分に対する態度を快く思っていなかったことから、毒薬入りの注射器を渡されたことによりAに対する殺意を抱き、Xの意図に気づかないふりを装って、注射器内の毒薬をAに注射した。これにより、Aは死亡した。

XとYの罪責を論じなさい（特別法違反の罪を除く）。

〔設問〕2（配点30点）

Zは、自分の所有する土地（以下、本件土地という。）をBに売却するという売買契約を締結し、Bから代金3000万円を受け取った。もっとも、Bへの所有権移転登記は完了しておらず、所有権の登記名義人はZのままになっていた。

そこでZは、本件土地をBに売却した事実を隠して、これを第三者Cに売却し、Cへの所有権移転登記を完了した。

Bを被害者とする犯罪について、Zの罪責を論じなさい（特別法違反の罪を除く）。

《問題1 以上》

《次頁に続く》

【問題2】 次の【事例】を読んで、後記〔設問〕に答えなさい。解答は、【問題1】を解答した用紙とは別の解答用紙に書き、冒頭に「問題2」と記入すること。

【事 例】

1 被告人Xは、職場の部下である被害者Vに対する強制性交の公訴事実で起訴された。Xは、公判廷において「私は確かにVと性交をしたが、Vも合意の上だった。」と主張した。

2 公判が進み、検察官が提出した種々の証拠により、本件犯行時頃にXがVと性交をしたこと、及び、VがXから頻繁に体を触られることについて職場の責任者に訴えていたことが明らかとなった。

さらに、検察官は、VがXとの性交に同意していなかったことを立証しようとした。ところが、Vは本件被害の直後に本件と無関係の交通事故で死亡していたため、検察官は、本件の前日にVと電話で話をしたというVの友人Aに公判で証言してもらうことにより、VがXに対して嫌悪の情を抱いていたことを立証しようとした。そして、その証人尋問がなされた。

3 Aは、その証人尋問で、検察官からの質問に対し

- ・ 私とVは、親しい友人の関係にあり、毎日のように電話で話したり、メールをしたりしていました。
- ・ 事件の前日、電話でVと話をしました。
- ・ そのとき、Vは「Xはいやらしいことばかりしてくるから嫌い。Xのことが本当に気持ち悪い。」と泣きながら訴えていました。

と供述した。

これに対し、Xの弁護人は、即座に異議を述べて証拠能力がないと主張した。

〔設 問〕

Aの供述中、下線部分の証拠能力は認められるか、論じなさい。

**《問題2 以上》
《刑事法系問題 以上》**

【出題意図】

刑法

設問1は、間接正犯と教唆犯との錯誤が問題となる事案を素材として、刑法総論の体系的理解と事案処理能力を問うものである。

設問2は、二重売買と横領罪の成否が問題となる事案を素材として、財産犯の基本的な理解と事案処理能力を問うものである。

刑事訴訟法

本問は、公判期日外における他の者の供述を内容とする供述の証拠能力について、320条1項の趣旨を踏まえて判断することができるかを問うものである。